

授業科目	＊在宅看護学						実務家教員担当科目	○			
単位	2	履修	必修	開講年次	3		開講時期	前期			
担当教員	石井 美紀代										
授業概要	実務家教員として、「家に帰りたい」と希望する療養者とその家族の生活の自立と、QOL 向上を目指した看護の大切さと難しさを伝える。 内容は、在宅看護が必要とされる背景、在宅療養者の多様性、在宅ケアの諸制度、在宅看護の場の特徴、在宅ケア・在宅看護の展開に必要な知識について講義します。さらに、医療・看護を取り巻く社会の変化に伴い、地域包括ケアにおいて看護に期待されている役割を考える。										
授業形態	対面授業				授業方法	反転授業 グループワーク					
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	1. 変化する社会において、在宅医療・在宅看護を必要とする背景を説明できる。 2. 在宅看護の対象の多様性を理解し、自立を支援する看護の方法について考えられる。 3. 在宅医療・看護に関わる施策・制度を整理し、在宅療養を支える社会資源を説明できる。 4. さまざまな病期の療養者に共通の課題を説明できる。 5. 継続看護の意義と方法について説明できる。 6. 療養者と家族を支えるために多職種・多機関と連携する必要性を説明できる。 7. 在宅看護にある、変動性・不確実性・複雑性・曖昧性について納得できる。										
理想的レベル	標準的なレベルの知識、思考、関心、態度を修得した上で、これらをより詳細に表現できる。具体的には、 1. 在宅ケア、在宅介護に関する社会問題を調べ、自分なりの意見がもてる。 2. 対象に適した看護について、柔軟に創造できる。										
評価方法・評価割合											
評価方法			評価割合（数値）				備考				
試験			80								
小テスト											
レポート											
発表（口頭、プレゼンテーション）											
レポート外の提出物			20				授業で作業したワークシート				
その他											
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	-	DP5	-	ナンバリング	NU21401J
学習課題（予習・復習）										1回の目安時間（時間）	
予習：教科書の該当箇所を読む 毎回の授業テーマに関連した既習科目の資料を振り返る 復習：講義で扱ったトピックスについて、自分の意見を整理する										4	
授業計画											

第 1 回	テーマ：在宅看護の概念と社会背景（1 章・2 章・3 章） ・在宅看護が推進される社会背景 ・在宅看護の 基本理念
第 2 回	テーマ：在宅看護の対象（3 章・4 章） ・対象の多様性/家族支援 ・在宅療養の成立要件
第 3 回	テーマ：在宅ケアを支える法・制度（5 章・7 章） ・介護保険/医療保険/障害者福祉制度/社会資源 ・訪問看護ステーションの開設基準
第 4 回	テーマ：療養の場の移行に伴う看護（3 章） ・継続医療/継続看護/入退院支援
第 5 回	テーマ：在宅看護におけるケアマネジメント（6 章） ・介護保険におけるケアマネジャーの役割 ・ケースマネジメント/ケアマネジメント
第 6 回	テーマ：在宅看護における看護技術の特徴（4 章・技術 5 章） ・継続医療に伴うケア
第 7 回	テーマ：在宅看護における看護技術の特徴（4 章・技術 6 章） ・在宅ケアにおけるリスクと安全管理 ・家庭内で起きる事故とその予防
第 8 回	テーマ：在宅看護における療養指導（4 章） ・訪問看護での患者指導
第 9 回	テーマ：在宅看護における危機管理（8 章） ・感染予防 ・災害に備える危機管理
第 10 回	テーマ：在宅療養での意思決定支援（3 章・4 章） ・人生会議（アドバンス・ケア・プランニング） ・看護倫理
第 11 回	テーマ：慢性疾患療養者を支える在宅ケア（4 章） ・慢性疾患管理 ・生活不活発病予防
第 12 回	テーマ：認知症高齢者を支える在宅ケア（4 章） ・認知症ケアパス ・認知症を支える在宅看護
第 13 回	テーマ：医療的ケア児の在宅ケア（4 章） ・医療的ケア児の現状 ・小児の在宅療養支援
第 14 回	テーマ：在宅での終末期ケアと看取り（4 章） ・在宅ホスピスの利点・欠点 ・在宅緩和ケアで提供される看護

第 15 回	在宅看護の展望（9章） ・在宅看護の動向と今後の発展 ・まとめ
テキスト	地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア（メディカ出版）
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	・地域・在宅看護論② 地域療養を支える技術（メディカ出版） ・1年次の地域生活支援論、2年次の地域連携協働支援論、家族看護学 のテキストと講義資料 ・その他、適宜、授業内で紹介します。
課題に対するフィードバックの方法	授業内の提出物は、後の講義の中で講評し、返却します。
学生へのメッセージ・コメント	在宅看護学の対象は全ライフステージの療養者であることから、在宅看護を考えるには、基礎看護学、小児看護学、母性看護学、成人看護学、老年看護学、精神看護学の知識が必要です。特に、社会保障概説、地域生活支援論、地域連携協働支援論、家族看護学で学んだことを使って考えることが多くあります。既習科目の教科書や講義資料などを用いて、必要な知識を振り返りながら学びを進めましょう。 ※授業の進行によっては、講義の順番を入れかえることがあります。